

社会福祉法人 日本心身障害児協会  
 島田療育センターはちおうじ

 レントゲンフィルムの医用画像をPACS環境で読影、  
 小児医療、療育支援の長期サポートを実現


施設名：島田療育センターはちおうじ  
 所在地：東京都八王子市台町4-33-13  
 (八王子小児・障害メディカルセンター内)  
 概要：島田療育センターは、1961年(昭和36年)に日本で最初に創立した重症心身障害児施設として開設。病院であると同時に、児童福祉法による生活の場であるために、医師や看護師をはじめ、リハビリスタッフ、保育士、介護福祉士などのたくさんの専門職が協力し、医療ならびに各種リハビリテーション、生活援助、様々な活動や教育を通じて、一人一人の機能や能力の向上と維持を図り、社会の一員として生活していくことを目的に、日々の療育を行っている。

診療科：神経小児科、児童精神科、摂食外来  
 リハビリテーション科、通所(デイケア)

医師数：14名  
 職員数：70名  
 URL：<http://www.shimada-ryoiku.or.jp>

## お話を伺った方

 島田療育センターはちおうじ  
 放射線技師

高橋 克記 先生

## レントゲンフィルムでの運用や保管での課題

## —お困りのことは何だったのでしょうか？

当センターでは、療育診療を行っており長い人は数十年レベルの長期間に亘って診療しています。当然、先生（医師）は患者さんの診療経過を見るためにこれまでのレントゲンフィルムを見て比較したいのですが、フィルムだとシャカステンのあるところに出向いて見なければならず、場所や時間の制約がありました。また、都度のレントゲンフィルムの取出し、収納にも労力がかかっていました。

## レントゲンフィルム電子化のきっかけ

## —どのようなタイミングで電子化されたのでしょうか。

平成23年4月に富士フィルムメディカルさんのSYNAPSEを採用、PACS環境での運用がスタートしました。ところが患者さんの最新の医用画像は端末で見られますが、過去のレントゲンフィルムは先程お話したとおり、必要な時に必要な医療情報が見られず、患者さんの診療経過を簡単に把握することが困難だったんです。先生方も不便さから要望もできて、平成27年3月にレントゲンフィルムの電子化に踏み切りました。

## レントゲンフィルム電子化の効果

## —変わったこと、良くなったことは何ですか。

やはり同一の端末で患者さんの診療経過の医用画像が過去に遡って見られることですね。的確な診断や時間短縮にもつながり効果が表れています。先生方も電子化された画像は多少劣ると懸念されたようですが、実際は画質も良くてびっくりされていました。満足レベルの声も聞こえて高評価です。また、電子化後のレントゲンフィルムは現在、保管していますが、今後、廃棄する予定です。そうなるとスペースも有効に使えそうです。

# レントゲンフィルム電子化の業者選定ポイント

## —電子化の作業業者を比較して当社を選択されたポイントを教えてください。

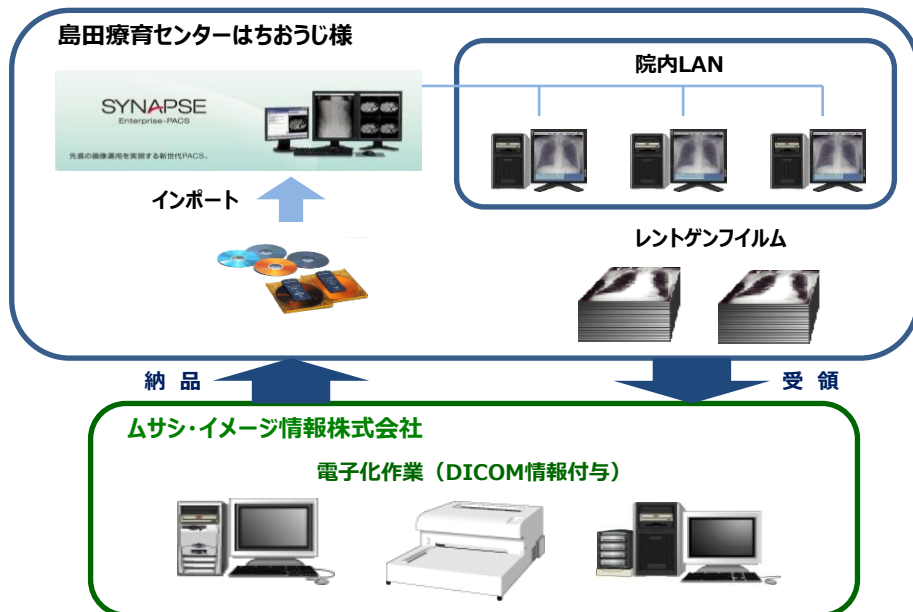
まずは何社かのホームページを見て比較しました。貴社が安心してお願いできると思いましたが、PACS採用先の富士フィルムメディカルさんの担当SEの方に問い合わせをしたところ、貴社を推奨すると回答がありました。その言葉でより安心してお願いすることができました。結果も満足しています。今回はすべてのレントゲンフィルムを電子化したわけではないので、次回、またお願いしようと思っています。

## 事例ポイント

1. レントゲンフィルムとPACSの医用画像を融合、同一環境での比較読影が実現
2. レントゲンフィルムの取出し、収納労力の解消
3. レントゲンフィルム電子化作業時、高画質を再現できる技術力のある業者を選択

## 導入ソリューション

「島田療育センターはちおうじ様の画像情報システムの運用イメージ」



## ムサシ・イメージ情報株式会社 医用画像事業部

TEL : 03-6228-4263

E-mail : [xray@musashi-ij.co.jp](mailto:xray@musashi-ij.co.jp)

URL : <http://www.musashi-ij.co.jp/>

〒135-0062 東京都江東区東雲1-7-12 KDX豊洲グランスクエア

